

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月12日
【四半期会計期間】	第11期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	アルフレッサ ホールディングス株式会社
【英訳名】	Alfresa Holdings Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石黒 傳六
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目1番3号
【電話番号】	03 - 5219 - 5100
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 財務・広報IR担当 三宅 俊一
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町一丁目1番3号
【電話番号】	03 - 5219 - 5100
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 財務・広報IR担当 三宅 俊一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第10期 第2四半期連結 累計期間	第11期 第2四半期連結 累計期間	第10期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	1,157,776	1,221,909	2,387,511
経常利益(百万円)	15,560	16,682	32,279
四半期(当期)純利益(百万円)	6,025	9,730	20,771
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	6,808	9,039	33,589
純資産額(百万円)	248,407	290,389	283,956
総資産額(百万円)	1,060,082	1,112,772	1,189,241
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	117.65	175.85	389.91
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	23.0	26.1	23.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	19,410	54,447	82,339
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,120	7,571	1,870
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,927	4,272	8,067
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高(百万円)	142,177	129,748	195,996

回次	第10期 第2四半期連結 会計期間	第11期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	34.87	87.82

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～9月30日）におけるわが国経済は、経済再生に向けた政策効果もあり、生産の持ち直しや企業収益の改善等、景気回復に向けて明るい兆しが見え始めました。しかしながら、新興国の景気減速や米国金融政策等の下振れ懸念があり、経済の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このようななか当社グループでは、新たに「13-15中期経営計画 変革への挑戦～次なる頂（いただき）を目指して～」を策定し、健康に関するサービスを総合的に提供する「ヘルスケアコンソーシアムの実現」、「安心、安全、誠実の追求」、ならびに「人づくり」を基本方針として、「社会から信頼される企業グループを目指す」、「新たな時代を拓く人財を育成する」、「医療用医薬品卸売事業の次なるステージを目指す」、「事業間連携・企業間連携の推進によりグループシナジーを追求する」、「健康・医療関連事業への進出をはかる」の5つの主要な経営テーマへの取り組みに着手いたしました。

その初年度である本年4月には、ベトナム国内の医療関連製品卸売界最大手であるCONG TY TNHH MTV DUOC PHAM TRUNG UONG 2(Codupha)との間で、同国において医療機器・医療材料を中心としたヘルスケア関連製品の輸入・販売を行うことを目的とした合弁会社Alfresa Codupha Healthcare Vietnam Co., Ltd.（アルフレッサ コドゥファヘルスケア ベトナム 所在地：ベトナム社会主義共和国ホーチミン市 当社出資比率70%）を設立することを決定し、設立に向けた準備を進めてまいりました。

また近年わが国では、希少疾病用医薬品・希少疾病用医療機器等の試験研究を促進するための特別な支援措置が施行されております。この施策を受けて、製薬会社各社は新製品の開発を促進しており、今後多くの製品が発売されると予測されます。このような状況に対応するため、アルフレッサ株式会社が希少疾病用医薬品・希少疾病用医療機器等の流通を行うことを目的としたエス・エム・ディ株式会社（本社：東京都千代田区 出資比率100%）を本年6月に設立いたしました。

当第2四半期連結累計期間における売上高は1兆2,219億9百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益は121億66百万円（前年同期比8.1%増）、経常利益は166億82百万円（前年同期比7.2%増）、四半期純利益は97億30百万円（前年同期比61.5%増）となりました。

各セグメントの業績については、次のとおりであります。

#### [ 医療用医薬品等卸売事業 ]

医療用医薬品市場におきましては、生活習慣病薬をはじめとする新製品や長期処方解禁品目が順調に推移したこと等により、2.7%の伸長（クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社推定）となりました。

このようななか当社グループは、厚生労働省の「医療用医薬品の流通改善に関する懇談会（流改懇）」の流通改善第3ラウンドの2年目として、「経済合理性に立った取引」、「単品単価取引の励行」、「価格未妥結・仮納入の改善」に積極的に取り組むとともに、引き続きお得意様へのサービス向上と業務効率化に努めました。また、アルフレッサ株式会社では、最新かつ正確な医薬品情報等を、お得意様や製薬会社各社により確実にスピーディーに提供するために、タブレット型端末を全支店に導入して、営業機能の高度化を推進しております。

当第2四半期連結累計期間の業績は、常盤薬品株式会社（本社：山口県宇部市）が昨年10月に連結子会社となった影響等により、売上高は1兆1,108億72百万円（前年同期比6.2%増）、営業利益は、112億68百万円（前年同期比9.7%減）となりました。なお、売上高には、セグメント間の内部売上高22百万円（前年同期比34.3%減）を含んでおります。

[セルフメディケーション卸売事業]

セルフメディケーション卸売事業におきましては、継続して利益改善の推進・強化や物流の効率化および業務改革を行い、事業基盤の確立に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は1,028億49百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益は20百万円（前年同期は営業損失18億92百万円）となりました。なお、売上高には、セグメント間の内部売上高2億95百万円（前年同期比29.4%増）を含んでおります。

[医薬品等製造事業]

医薬品等製造事業におきましては、アルフレッサファーマ株式会社岡山製薬工場における受託製造が伸長しております。また、新たな迅速診断キット製品の開発や既存製品の改良、および個別化医療にも貢献できる付加価値の高い診断薬製品（コンパニオン診断薬等）の開発を目的として、茨木リサーチセンター（大阪府茨木市）の建て替えを進めてまいりましたが、本年6月に竣工し、稼働いたしました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は129億79百万円（前年同期比0.3%減）、営業利益は7億76百万円（前年同期比60.7%増）となりました。なお、売上高には、セグメント間の内部売上高44億73百万円（前年同期比3.5%増）を含んでおります。

(2) 連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して662億48百万円減少し、1,297億48百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動の結果、減少した資金は544億47百万円（前年同期は194億10百万円の増加）となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益162億51百万円および減価償却費43億1百万円があったものの、一方で仕入債務の減少額636億21百万円、法人税等の支払額187億82百万円があったことによるものです。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動の結果、減少した資金は、75億71百万円（前年同期は31億20百万円の増加）となりました。これは主として、関西エリアの物流拠点再構築をはじめ有形固定資産の取得による支出60億83百万円があったことによるものです。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動の結果、減少した資金は42億72百万円（前年同期比3億45百万円増）となりました。これは主として、配当金の支払額26億円があったことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は5億79百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	135,000,000
計	135,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	58,754,400	58,754,400	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	58,754,400	58,754,400	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	58,754,400	-	18,454	-	58,542

## (6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
アルフレッサ ホールディングス社員持 株会	東京都千代田区大手町1-1-3	1,788	3.04
第一三共株式会社	東京都中央区日本橋本町3-5-1	1,777	3.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,570	2.67
ノーザン トラスト カンパニー (エイ ブイエフシー) サブ アカウント アメリ カン クライアント (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3-11-1)	1,251	2.13
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,188	2.02
エーザイ株式会社	東京都文京区小石川4-6-10	1,150	1.95
メロン バンク エヌエー アズ エージェ ント フォー イッツ クライアント メロ ン オムニバス ユーエス ペンション (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済 営業部)	ONE BOSTON PLACE BOSTON, MA 02108 (東京都中央区月島4-16-13)	975	1.65
福神 邦雄	東京都世田谷区	862	1.46
ステート ストリート バンク アンド ト ラスト カンパニー 505225 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済 営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A (東京都中央区月島4-16-13)	806	1.37
ステート ストリート バンク アンド ト ラスト カンパニー (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済 営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A (東京都中央区月島4-16-13)	732	1.24
計		12,102	20.59

(注) 1. 上記の信託銀行所有株式数のうち、信託業務に係る株式を次のとおり含んでおります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 1,489千株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 1,054千株

2. 当社は自己株式3,417千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

3. マラソン・アセット・マネジメント・エルエルピーから平成24年10月18日付で大量保有報告書の変更報告書 No. 4の提出があり、平成24年10月1日現在で3,937千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、これらの報告書の内容は、以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
マラソン・アセット・マネジメント・ エルエルピー	Orion House, 5 Upper St. Martin's Lane, London WC2H 9EA, UK	3,937	6.70

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,417,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 55,130,700	551,307	-
単元未満株式	普通株式 205,800	-	-
発行済株式総数	58,754,400	-	-
総株主の議決権	-	551,307	-

(注)「完全議決権株式(その他)」および「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ、700株および20株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数7個が含まれております。

## 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アルフレッサホールディングス株式会社	東京都千代田区 大手町1-1-3	3,417,900	-	3,417,900	5.82
計	-	3,417,900	-	3,417,900	5.82

## 2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）および第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	146,093	86,420
受取手形及び売掛金	<sup>1</sup> 563,458	572,456
有価証券	67,007	60,494
商品及び製品	134,843	119,813
仕掛品	457	616
原材料及び貯蔵品	1,647	1,818
その他	67,431	61,781
貸倒引当金	483	420
流動資産合計	980,456	902,979
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	34,362	33,730
土地	50,704	50,971
その他(純額)	11,296	14,892
有形固定資産合計	96,362	99,594
無形固定資産		
のれん	4,862	4,292
その他	6,087	5,760
無形固定資産合計	10,950	10,052
投資その他の資産		
投資有価証券	85,258	84,878
その他	20,548	19,773
貸倒引当金	4,335	4,506
投資その他の資産合計	101,472	100,145
固定資産合計	208,785	209,792
資産合計	1,189,241	1,112,772

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	<sup>1</sup> 821,663	758,041
短期借入金	880	880
未払法人税等	19,276	4,900
賞与引当金	6,818	6,179
その他	15,901	13,047
流動負債合計	864,539	783,048
固定負債		
長期借入金	1,484	1,044
退職給付引当金	17,399	17,366
その他	21,861	20,923
固定負債合計	40,745	39,334
負債合計	905,284	822,383
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	100,109	100,109
利益剰余金	139,848	146,954
自己株式	1,178	1,183
株主資本合計	257,233	264,335
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,004	30,206
繰延ヘッジ損益	0	0
土地再評価差額金	4,490	4,466
為替換算調整勘定	9	91
その他の包括利益累計額合計	26,523	25,831
少数株主持分	198	223
純資産合計	283,956	290,389
負債純資産合計	1,189,241	1,112,772

## (2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	1,157,776	1,221,909
売上原価	1,078,997	1,142,495
返品調整引当金戻入額	687	785
返品調整引当金繰入額	709	653
売上総利益	78,758	79,546
販売費及び一般管理費	67,503	67,379
営業利益	11,254	12,166
営業外収益		
受取利息及び配当金	904	1,024
受取情報料	2,776	2,927
その他	885	916
営業外収益合計	4,566	4,868
営業外費用		
支払利息	75	74
貸倒引当金繰入額	-	16
持分法による投資損失	76	111
不動産賃貸費用	50	58
その他	58	91
営業外費用合計	260	352
経常利益	15,560	16,682
特別利益		
固定資産売却益	66	1
投資有価証券売却益	48	109
受取和解金	-	175
受取補償金	-	66
特別利益合計	114	352
特別損失		
固定資産売却損	486	44
固定資産除却損	140	165
減損損失	572	423
のれん償却額	779	-
投資有価証券売却損	-	2
投資有価証券評価損	40	1
特別退職金	689	48
事業構造改革費用	31	-
その他	-	97
特別損失合計	2,740	783
税金等調整前四半期純利益	12,933	16,251
法人税、住民税及び事業税	7,690	4,705
法人税等調整額	966	1,790
法人税等合計	6,723	6,495
少数株主損益調整前四半期純利益	6,210	9,755
少数株主利益	184	24
四半期純利益	6,025	9,730

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主利益	184	24
少数株主損益調整前四半期純利益	6,210	9,755
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	590	798
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	8	82
その他の包括利益合計	598	715
四半期包括利益	6,808	9,039
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,623	9,014
少数株主に係る四半期包括利益	185	24

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	12,933	16,251
減価償却費	4,276	4,301
減損損失	572	423
のれん償却額	1,412	570
貸倒引当金の増減額(は減少)	448	107
賞与引当金の増減額(は減少)	580	638
役員賞与引当金の増減額(は減少)	77	114
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	3	84
退職給付引当金の増減額(は減少)	824	32
受取利息及び受取配当金	904	1,024
支払利息	75	74
固定資産売却損益(は益)	420	42
固定資産除却損	140	165
投資有価証券売却損益(は益)	48	106
投資有価証券評価損益(は益)	40	1
受取和解金	-	175
受取補償金	-	66
特別退職金	689	48
事業構造改革費用	31	-
売上債権の増減額(は増加)	19,038	9,112
たな卸資産の増減額(は増加)	940	14,700
仕入債務の増減額(は減少)	31,098	63,621
その他	12,616	1,508
小計	20,131	36,781
利息及び配当金の受取額	954	1,024
利息の支払額	83	79
受取和解金の受取額	-	175
特別退職金の支払額	148	3
事業構造改革費用の支払額	53	-
災害による損失の支払額	9	-
法人税等の支払額	1,381	18,782
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,410	54,447

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	162	229
定期預金の払戻による収入	145	206
有価証券の売却による収入	5,000	-
有形固定資産の取得による支出	2,378	6,083
有形固定資産の売却による収入	932	60
無形固定資産の取得による支出	657	711
長期前払費用の取得による支出	5	10
投資有価証券の取得による支出	249	1,176
投資有価証券の売却による収入	455	294
貸付けによる支出	132	61
貸付金の回収による収入	174	140
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,120	7,571
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	440	440
リース債務の返済による支出	1,150	1,226
自己株式の取得による支出	4	5
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	2,304	2,600
少数株主への配当金の支払額	28	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,927	4,272
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	43
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	18,607	66,248
現金及び現金同等物の期首残高	123,569	195,996
現金及び現金同等物の四半期末残高	142,177	129,748

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	2,893 百万円	- 百万円
支払手形	2,320	-

2 保証債務

連結子会社以外の会社の仕入債務および金融機関からの借入、ならびに従業員の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
(有)コーフク商事	444百万円	(有)コーフク商事	430百万円
(株)広島中央薬局	310	(株)広島中央薬局	294
ファーマシーリンク(株)	78	ファーマシーリンク(株)	77
ヒューマンメディカルリサーチ(株)	34	従業員	8
従業員	10	その他	34
その他	1		
計	879	計	845

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
給与手当	23,108百万円	23,459百万円
賞与引当金繰入額	5,878	6,012
役員賞与引当金繰入額	92	100
退職給付費用	2,645	2,433
役員退職慰労引当金繰入額	26	24
福利厚生費	3,945	4,045
貸倒引当金繰入額	353	140
減価償却費	3,591	3,607
荷造運送費	8,079	7,907

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	128,043百万円	86,420百万円
有価証券勘定	26,000	60,494
預入期間が3か月を超える定期預金および譲渡性預金	11,865	17,166
現金及び現金同等物	142,177	129,748

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月9日 取締役会	普通株式	2,304	45	平成24年3月31日	平成24年6月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月5日 取締役会	普通株式	2,355	46	平成24年9月30日	平成24年12月5日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月9日 取締役会	普通株式	2,600	47	平成25年3月31日	平成25年6月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月5日 取締役会	普通株式	2,711	49	平成25年9月30日	平成25年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

・前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)2
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケー ション卸売 事業	医薬品等 製造事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,045,988	103,092	8,695	1,157,776	-	1,157,776
セグメント間の内部売上高 または振替高	34	228	4,323	4,587	4,587	-
計	1,046,023	103,320	13,019	1,162,364	4,587	1,157,776
セグメント利益または損失 ( )	12,484	1,892	483	11,075	178	11,254

(注)1. セグメント利益または損失の調整額178百万円には、セグメント間取引消去3,290百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用 3,111百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の一般管理費であります。

2. セグメント利益または損失は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「セルフメディケーション卸売事業」セグメントにおいて、子会社であるアルフレッサヘルスケア株式会社の純資産額が当社帳簿価額を著しく下回っており、のれんの実在性評価が困難となったため、のれんの帳簿価額を減額し、減少額をのれん償却額として特別損失に計上しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第2四半期連結累計期間においては779百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

・当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケー ション卸売 事業	医薬品等 製造事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,110,849	102,554	8,505	1,221,909	-	1,221,909
セグメント間の内部売上高 または振替高	22	295	4,473	4,792	4,792	-
計	1,110,872	102,849	12,979	1,226,701	4,792	1,221,909
セグメント利益	11,268	20	776	12,065	101	12,166

(注) 1. セグメント利益の調整額101百万円には、セグメント間取引消去3,001百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用 2,900百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	117円65銭	175円85銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	6,025	9,730
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	6,025	9,730
普通株式の期中平均株式数(千株)	51,216	55,336

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成25年11月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (1) 中間配当による配当金の総額.....2,711百万円
  - (2) 1株当たりの金額.....49円00銭
  - (3) 支払請求の効力発生日および支払開始日.....平成25年12月5日
- (注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月12日

アルフレッサ ホールディングス株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	尾関 純	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	北川 健二	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	桂木 茂	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアルフレッサホールディングス株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アルフレッサホールディングス株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途、財務諸表に添付される形で保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。